

おわりに

1993年、江戸東京博物館の開業のとき、常設展に「モースのみた東京」というコーナーを新設のうえ、ピーボディ・エセックス博物館から187点のモースコレクションを2年間、長期借用のうえ展示した。いまから30年前のことである。以後、この方法で8年半にわたり継続した。

豊富なモースコレクションから、1999年には特別展「日米交流のあけぼの展」を開催。同展は2000年にピーボディ・エセックス博物館でも開催となった。そして2013年には特別展「明治のころ—モースの見た庶民のくらし—展」を開催した。

そんなピーボディ・エセックス博物館と江戸東京博物館の交流はこのほど30周年を迎える。それを記念に本書を刊行するはこびとなった。これまでの展覧会や調査研究の成果をここでまとめておき、今後の両館のビジョンを発展させる弾みとしたいと考えた。

世界に猛威をふるった新型コロナウイルスは、いまだ収束にはいたってない。私たちはそれまで少なくとも1年に1回はセーラムを訪問していたのだが、この災禍によってもう3年もそれが叶っていない。

モースコレクションは現代の日本人にとって、きわめてユニークで稀有な、かけがえのないものと思う。閉塞感に覆われ、なにかと心が内へ、内へと向かってしまうこのような時代、コレクションに対峙すると1点1点の「もの」が語りかけてくる。“センス・オブ・ワンダー”とっていいのだろうか。

新型コロナウイルス後を見据えても、このコレクションの価値はますます高まり、新たにさまざまなミュージアムシーンをにぎわすに違いないと確信している。

刊行にあたっては、いつものことながらピーボディ・エセックス博物館の友人たちには徹底的にお世話になった。記して謝意を述べさせていただく。

2022年（令和4）3月

東京都江戸東京博物館

副館長

小林 淳一

東京都江戸東京博物館 調査報告書 第35集

モース研究

令和4年3月4日発行

編 集 東京都江戸東京博物館 都市歴史研究室
発 行 公益財団法人 東京都歴史文化財団
東京都江戸東京博物館
〒130-0015
東京都墨田区横網1-4-1
TEL 03(3626)9974(代表)

印 刷 前田印刷株式会社

©Edo-Tokyo Museum Printed in Japan, March 2022
ISBN 978-4-909155-20-7 C0021